

提出順	3	発言順	3	令和5年8月18日
				午前・午後 9時10分受領

(2 枚中 No. /)

令和 5年 8月 18日

(宛先) 安曇野市議会議員 平林 明

安曇野市議会議員

橋本 裕二

一般質問発言通告書

下記のとおり、通告します。

議会名	令和5年安曇野市議会 9月定例会		
発言の方法	<input checked="" type="checkbox"/> 一問一答 <input type="checkbox"/> 一括質問一括答弁	質問時間	20分
答弁を求める者	<input checked="" type="checkbox"/> 市長 <input type="checkbox"/> 副市長 <input checked="" type="checkbox"/> 教育長 <input type="checkbox"/> 他 ()		
	担当部長 <input type="checkbox"/> 総務部 <input type="checkbox"/> 政策部 <input type="checkbox"/> 市民生活部 <input type="checkbox"/> 福祉部 <input type="checkbox"/> 保健医療部 <input type="checkbox"/> 農林部 <input type="checkbox"/> 商工観光スポーツ部 <input type="checkbox"/> 都市建設部 <input type="checkbox"/> 危機管理監 <input type="checkbox"/> 上下水道部 <input checked="" type="checkbox"/> 教育部 <input type="checkbox"/> 他 ()		
質問事項	小・中学校における英語教育について		

質問の要旨 (具体的に記載してください)

1. いまの日本の子ども達にとって「英語」とは何なのか。
2. 市の英語教育の方針は。(学習指導要領を超えた市独自の、具体的な考えがあれば)
3. 市内小・中学生の英語学力の変遷は。それをどう評価しているか。令和5年度の全国学力テストの結果はどうであったか。
4. 英検準1級程度 (CEFR B2 レベル) 以上を取得している英語専科教員の割合は。
5. 中学校の英語の授業の発話は英語で行われているか。
※学習指導要領 - 授業は英語で行うことを基本とする。
6. シンガポール、オーストラリアと、外交が続いている。英語教育に関して助言を。
7. 現在、児童生徒と外国との交流はあるか。予定はあるか。

提出順	3	発言順	3	令和 5 年 8 月 18 日
				午前・午後 9 時 10 分受領

(2 枚中 No. 2)

令和 5 年 8 月 18 日

(宛先) 安曇野市議会議長 平林 明

安曇野市議会議員

橋本 裕二

一般質問発言通告書

下記のとおり、通告します。

議会名	令和 5 年安曇野市議会 9 月定例会		
発言の方法	<input checked="" type="checkbox"/> 一問一答 <input type="checkbox"/> 一括質問一括答弁	質問 時間	
答弁を求める者	<input type="checkbox"/> 市長 <input type="checkbox"/> 副市長 <input type="checkbox"/> 教育長 <input type="checkbox"/> 他 ()		
	担当部長 <input type="checkbox"/> 総務部 <input type="checkbox"/> 政策部 <input type="checkbox"/> 市民生活部 <input type="checkbox"/> 福祉部 <input type="checkbox"/> 保健医療部 <input type="checkbox"/> 農林部 <input checked="" type="checkbox"/> 商工観光スポーツ部 <input type="checkbox"/> 都市建設部 <input type="checkbox"/> 危機管理監 <input type="checkbox"/> 上下水道部 <input checked="" type="checkbox"/> 教育部 <input type="checkbox"/> 他 ()		
質問事項	小・中学校における英語教育について		

8. 世界中の教室をオンラインでつなげる手段がある。(例: iEARN)
国境を超えて児童生徒どうしが交流する場を全市的に積極活用してはどうか。
9. 中学生海外ホームステイ交流派遣事業の再開について、検討状況はどうか。大勢の生徒が参加希望を出せるよう、公費負担割合を上げるべきと考えるがどうか。訪問先はオーストラリア・メルボルンに限らず、アジア諸国も検討対象として良いのではないか。
10. 市は外国人留学生を、また、県が力を入れている海外からの訪日教育旅行を積極的に受け入れているか。
11. 学び続ける教職員を支援する、と市教育大綱にある。英語教員が自身の英語力を維持・向上するための、また諸外国に対する知見を深めるための支援を行っているか。一例だが慶応義塾の語学公開講座は夜間に zoom で受講でき、ネイティブ講師もいる。希望する教員に対し、このような公開講座の受講を支援してはどうか。

以上